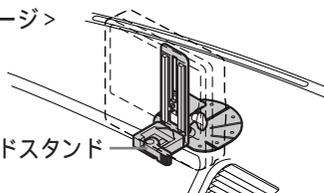


# スタンドと本体を取り付ける

付属のダッシュボードスタンドを使って、車のダッシュボードに本体を取り付けます。

取り付けかたは、別冊のダッシュボードスタンド取付説明書をお読みください。

<取付イメージ>



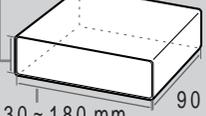
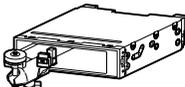
ダッシュボードスタンド  
(付属)

取り付け場所について (KX-GT300Vのみ)

本体の取り付け場所によっては、車載のFMラジオで音声を聞く場合に、FMトランスミッターからの受信感度が悪くなる場合があります。

取り付ける前に受信感度を確認してください。(※91ページ)

付属のダッシュボードスタンド以外にも、下記の4種類の別売品のスタンドで取り付けることもできます。

スタンド名	品番	形状と取付場所	取付例 (コードの接続のしかた 24、25ページ)
アームスタンド	KS-GA3 (クイックシュー 付属)	クイックシュー  ● 助手席の固定ボルトに取り付けます。	 ● クイックシュー(品番: PQKL10034Z)は、旧機種からの買い替えのときに必要となる場合がありますので、お買い上げの販売店にご相談ください。
インダッシュスタンド	KX-GNS50	 ● 1DINコンソール内に取り付けます。	インダッシュスタンドを車に取り付けるには、専門技術が必要です。お買い上げの販売店にご相談ください。  ● インダッシュスタンドへ本体を収納するときは、FM-VICS内蔵テレビチューナーユニットを本体から取り外し、本体にチューナーコネクターカバーを取り付けてください。(FM-VICS内蔵テレビチューナーユニットを取り付けた状態では、インダッシュスタンドに収納できません。) ● インダッシュスタンドの引き出し、収納は手動式です。
らくらくスタンド	KX-GNS34	 ● コンソールの小物入れに取り付けます。	 取り付け可能な小物入れの寸法 42~52 mm (数字は内寸法)  130~180 mm 90 mm以上
1DINスペース取付スタンド	KS-GNS24	 ● 1DINコンソール内に取り付けます。	 1DINスペース取付スタンドを車に取り付けるには、専門技術が必要です。お買い上げの販売店にご相談ください。

詳しい取り付けかたについては、それぞれのスタンドに添付の説明書をお読みください。

スタンドの適合車種については、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

 お願い

- 付属または指定以外のスタンドは使用しないでください。(※147ページ「別売品一覧」)
- 極端な高温・低温になる場所に放置しないでください。

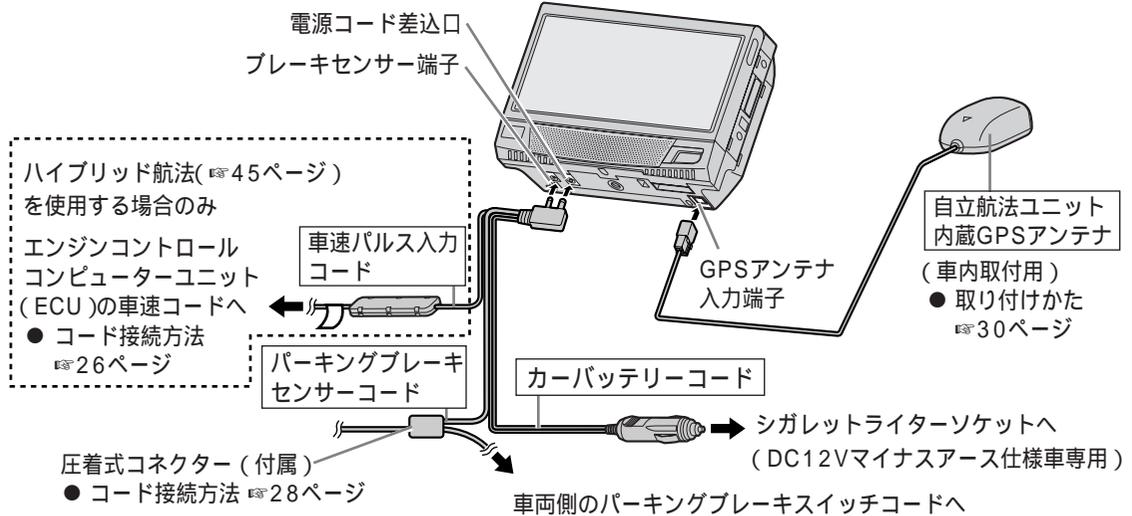
〔夏季の閉めきった車内、長時間直射日光の当たる場所や極端な低温場所に放置すると、変形・変色・故障の原因となることがあります。保存温度範囲： - 10 ~ + 60 〕

# コードを接続する

## カーバッテリーコードを接続する

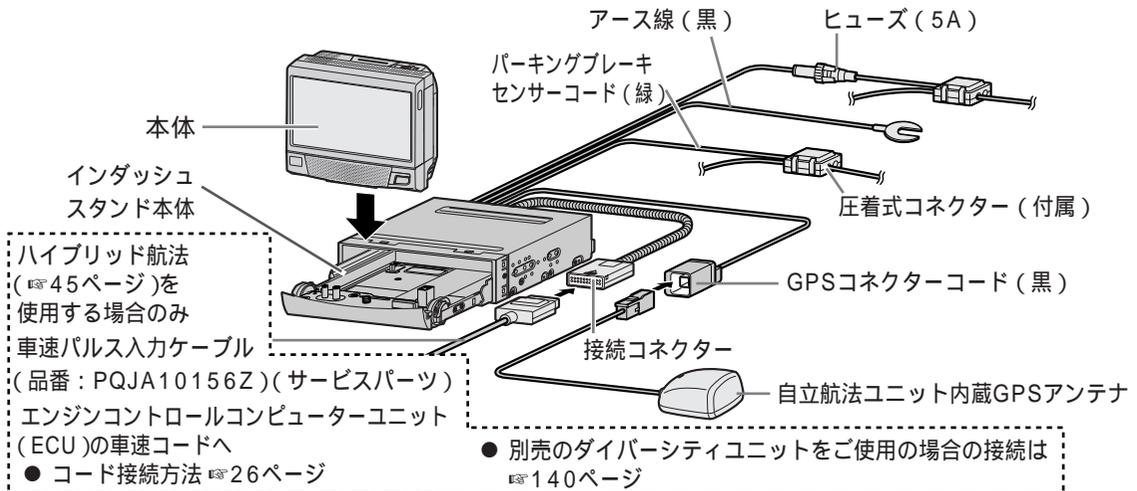
KX-GT300V

カーバッテリーコード、パーキングブレーキセンサーコード、自立航法ユニット内蔵GPSアンテナコード、車速パルス入力コードを下図のように接続してください。



### インダッシュスタンドの場合

インダッシュスタンドでの取り付け・配線には専門技術が必要です。お買い上げの販売店にご相談ください。



お買い上げの販売店にご相談ください。車速信号をとる場合のコード接続方法は車速パルス入力コードと同じです。(☞26ページ)



## 注意

コードをはさみ込ませたり、引っ張ったり傷つけない

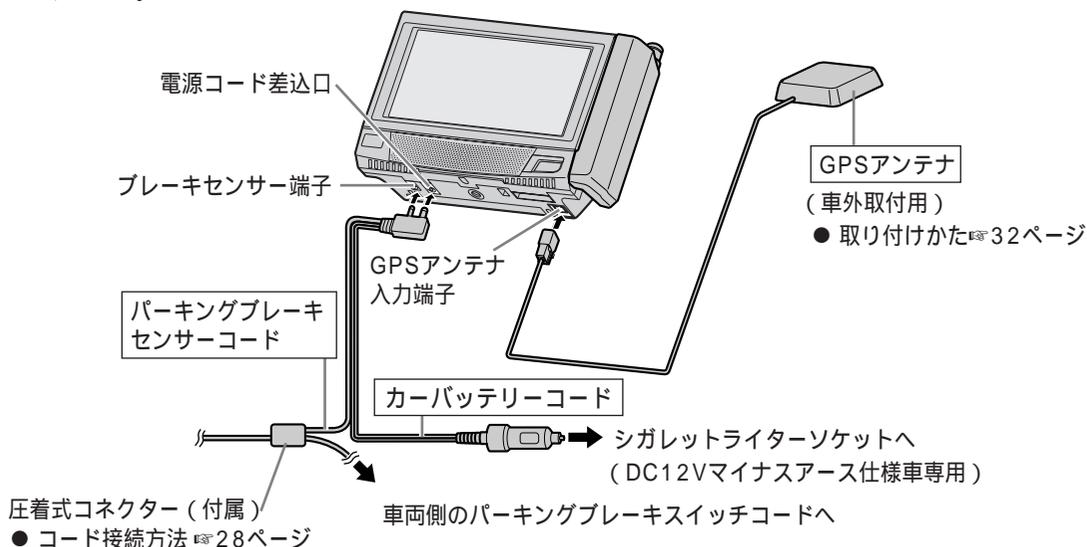


禁止

ショートや断線により、故障や火災の原因になることがあります。

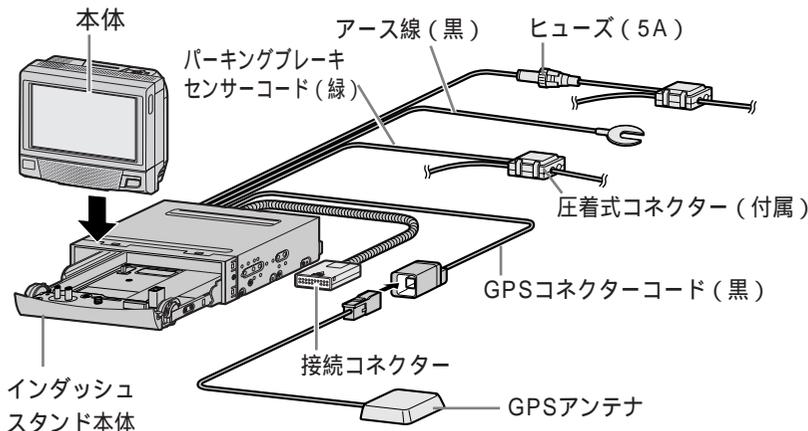
## KX-GT200V

カーバッテリーコード、パーキングブレーキセンサーコード、GPSアンテナコードを下図のように接続してください。



### インダッシュスタンドの場合

インダッシュスタンドでの取り付け・配線には専門技術が必要です。お買い上げの販売店にご相談ください。



### お願い

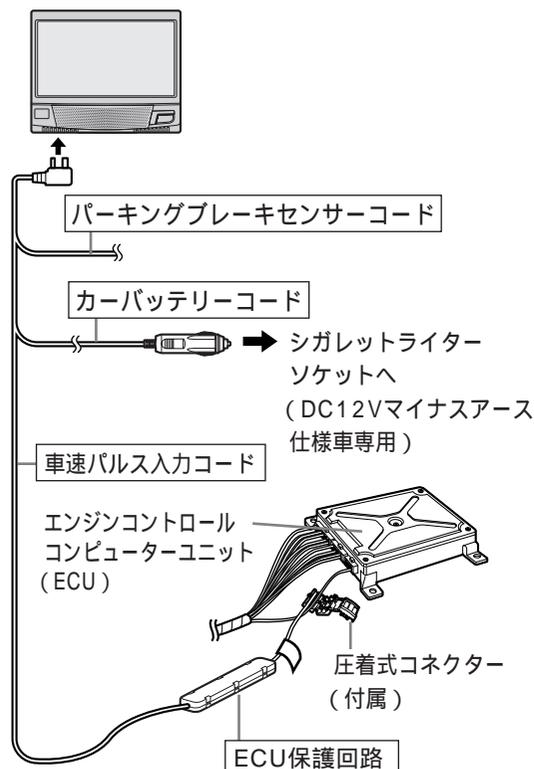
- カーバッテリーコードのプラグは、シガレットライターソケットおよび本体の奥に突き当たるまでしっかり差し込んでください。(接触不良の原因になる場合があります。)
- GPSアンテナのコードのコネクターは、カチッと音がするまで差し込んでください。
- コードなどの配線処理は、安全運転に支障をきたさないようにしてください。
- 座席シートを移動するとき、コードなどをはさみこまないようにシートの下へたばねるなどして、配線処理をしてください。

## コードを接続する

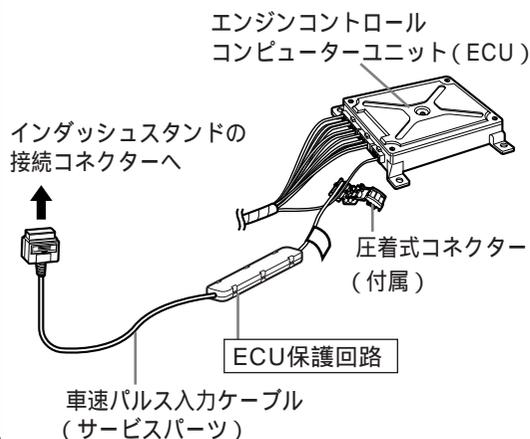
## 車速パルス入力コードを接続する (KX-GT300Vでハイブリッド航法を使用する場合のみ)

自立航法には簡易ハイブリッド航法とハイブリッド航法があります。45ページの「自立航法について」をよくお読みのうえ、お選びください。

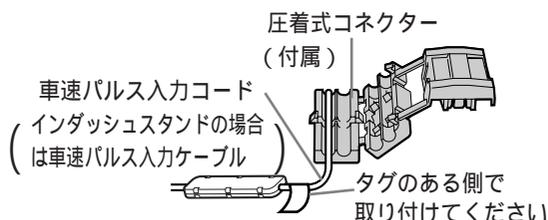
自立航法のハイブリッド航法を使用する場合は、車速信号を取る必要があります。車速信号の取り出しについては、専門知識が必要です。お買い上げの販売店にご相談ください。



## インダッシュスタンドの場合



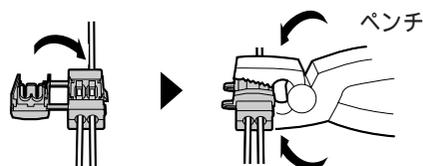
- 1 車速パルス入力コードの先端を圧着式コネクタ (付属) の溝に取り付ける



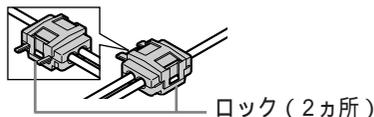
- 2 圧着式コネクタをエンジンコントロールコンピューターユニット (ECU) の車速信号コードに取り付ける



- 3 圧着式コネクタを折りたたみ、ペンチなどでしっかりと固定する



- コネクタのロック2カ所が確実にかかっていることをお確かめください。



## ⚠ 注意

コード配線を車体やねじ類にはさみ込ませたり、ショートさせたりしない



禁止

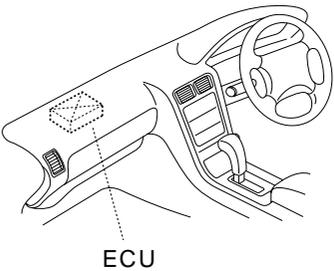
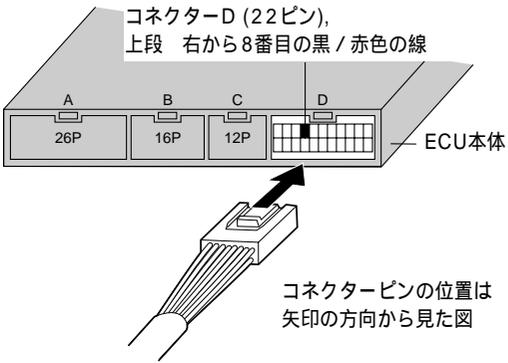
車速信号コードの配線を車体とショートさせますと車の走行に支障をきたす恐れがあります。

### 車速信号の取り出し箇所について

- お使いの車の「車速信号取出箇所案内図（下図）と照合し、車速信号が接続されているエンジン電子制御装置の端子を確認します。

（車速取出箇所案内図は、車種・年式・エンジン型式により異なります。）

車速信号取出箇所案内図（例）

エンジン型式	AB12	車速信号の種類
車速信号取出箇所の名称	ECU（エンジンコントロールコンピューターユニット）	デジタル信号
設置位置		接続箇所
グローブボックスの上部  <p style="text-align: center;">ECU</p>		 <p>コネクタ-D（22ピン）、 上段 右から8番目の黒／赤色の線</p> <p>ECU本体</p> <p>コネクタピンの位置は 矢印の方向から見た図</p>

#### お願い

- ECU保護回路を踏んだり、はさみ込ませたりして傷つけないでください。
- 圧着式コネクタをロックしたあと、コードを軽く引っ張り、断線していないことを確認してください。

#### お知らせ

- 接続をまちがえたとき 29ページ

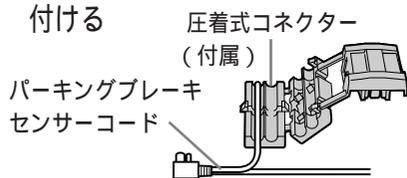
## コードを接続する

## パーキングブレーキセンサーコードを接続する

## 何のため？

走行中(運転中)の操作は、前方不注意となり、大変危険です。本機では、お客様の安全を守るため、走行中の操作を制限しています。走行中か停車中かを判断するために、パーキングブレーキセンサーコードを接続します。パーキングブレーキセンサーコードを正しく接続していないと、停車中でも走行中と同様に操作が制限されます。(※41ページ)

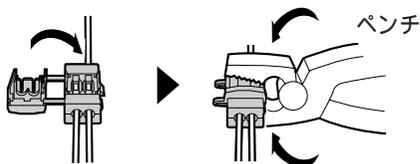
- 1** パーキングブレーキセンサーコードの先端を圧着式コネクタ(付属)の溝に取り付ける



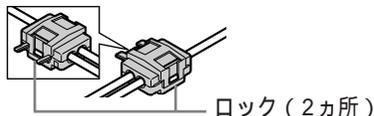
- 2** 圧着式コネクタを車両側のパーキングブレーキスイッチコードに取り付ける



- 3** 圧着式コネクタを折りたたみ、ペンチなどでしっかりと固定する



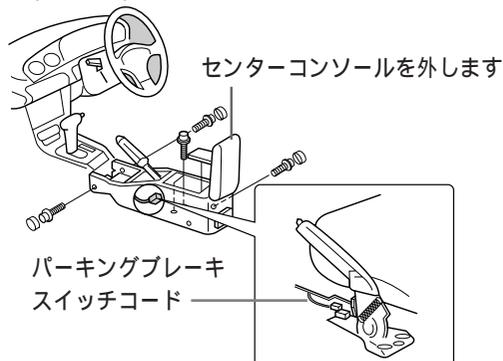
- コネクタのロック2カ所が確実にかかっていることをお確かめください。



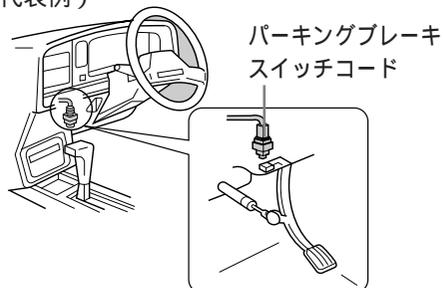
## パーキングブレーキスイッチコードの位置

車種によって異なります。詳しくは車をお買い求めの販売店またはサービス会社などにご相談ください。

パーキングブレーキがハンドブレーキの場合  
(代表例)



パーキングブレーキがフットブレーキの場合  
(代表例)



## お願い

- 車両のパーキングブレーキスイッチコードが細い場合、接続が不十分になり正しく動作しないことがあります。お買い上げの販売店にご相談ください。
- 取り付けと接続が終わったら、ブレーキランプやバックランプ、ホーン、ウインカーなどの電装品が正しく動作するか確認してください。
- 圧着式コネクタをロックしたあと、コードを軽く引っ張り、断線していないことを確認してください。

## お知らせ

- パーキングブレーキセンサーコードは適当な長さに切って接続できます。
- パーキングブレーキセンサーコードを正しく接続していない場合、停車中にパーキングブレーキを引いても、走行中と判断し、機能や操作を制限します。再度、接続をお確かめください。
- 接続をまちがえたとき ※29ページ



## 警告

パーキングブレーキセンサーコードを接続するときは、パーキングブレーキを引いて、エンジンを切る



車が動いて、事故の原因になります。

安全のため必ずパーキングブレーキスイッチコードに接続する

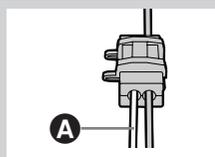


間違った取り付けをすると、安全機能がはたらかなくなり、事故の原因になります。

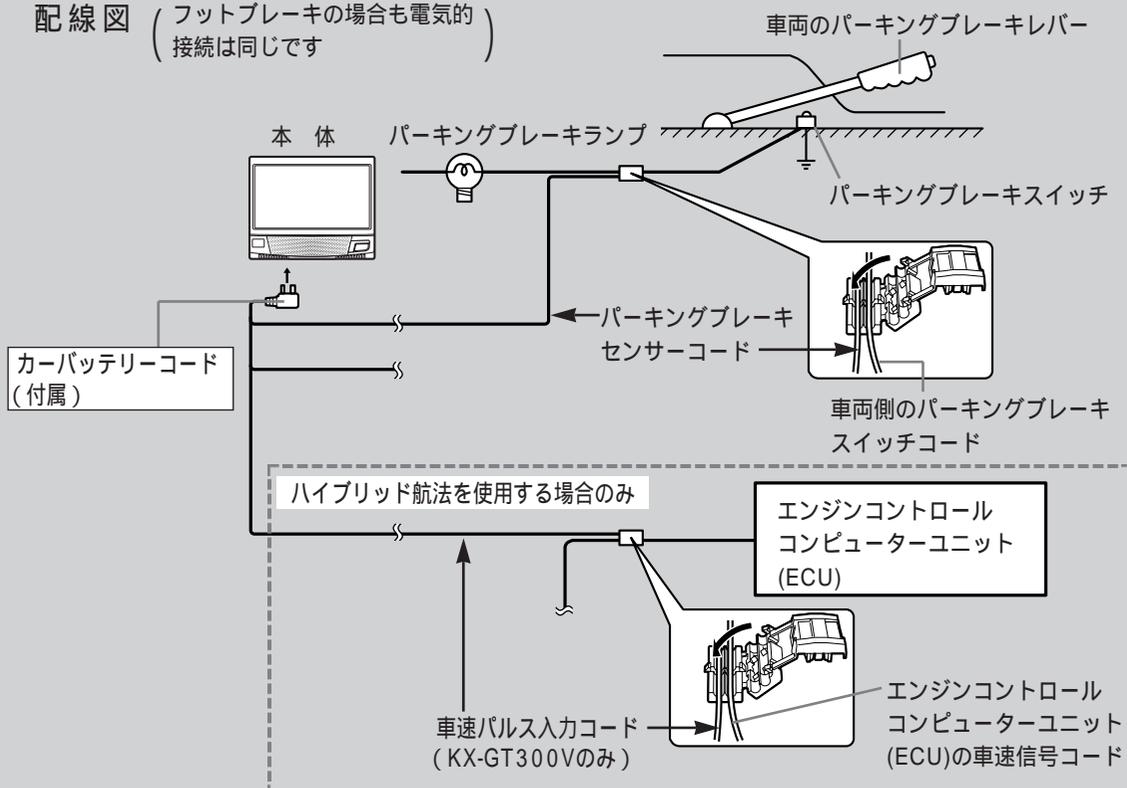
- 28～29ページに従って正しく接続してください。

### 接続をまちがえたとき

Ⓐの位置でパーキングブレーキセンサーコードまたは車速パルス入力コードを切り、市販の圧着式コネクター(適用電線サイズ: AWG # 20～18)を使い正しい位置に取り付け直してください。(圧着式コネクターを無理に外すと断線の原因になります。)



### 配線図 (フットブレーキの場合も電氣的接続は同じです)



# GPSアンテナを取り付ける( KX-GT300Vの場合 30ページ KX-GT200Vの場合 32ページ )



## 警告

エアバッグの動作を妨げる場所には、絶対に取り付けと配線をしない



禁止

エアバッグ動作時にコードなどが外れて、けがの原因になります。

## 自立航法ユニット内蔵GPSアンテナの取り付けかた ( KX-GT300V )

### 取り付け位置について ( 車内専用です )

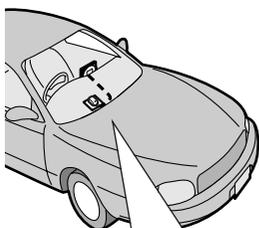
自立航法ユニット内蔵GPSアンテナは、正しく取り付けしないと、衛星からの情報を受信できない場合や、自立航法が正しく動作しない場合があります。

#### 〔取り付け例〕

次のような場所に取り付けてください。

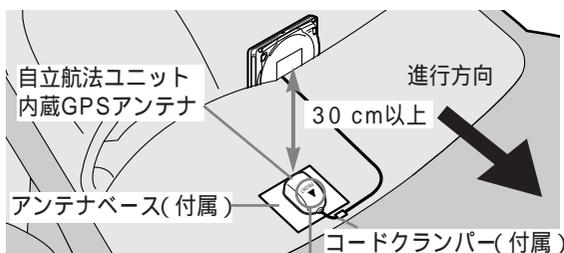
( 車外へは取り付けないでください。 )

- 本体から 30 cm 以上離れたところ
- ダッシュボードの先端
- 水平な場所
- 道路の中央寄り ( 車の右側 )
- 車の温度センサーなどと重ならないところ
- 自立航法ユニット内蔵GPSアンテナのコードはテレビやラジオのアンテナコードから離れたところに配線する ( テレビやラジオの受信妨害の原因になります。 )



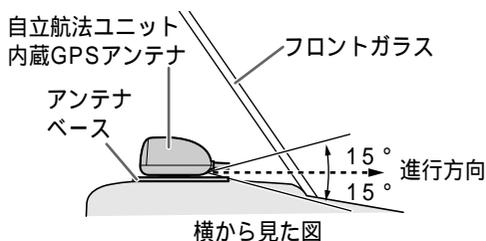
- 自立航法ユニット内蔵GPSアンテナは、取付角度を守ってしっかりと取り付けてください。逆さにしたり、縦にして取り付けると、動作が異常になったり、GPS衛星の受信状態が悪くなり、自車位置がずれたりします。

#### 取付方向 ( 向き )



▲ FRONT( コードが出ているほう )を車の進行方向に合わせて位置を決めてください。

#### 取付角度



- アンテナ本体が水平に対し  $\pm 15^\circ$  以内になるように取り付けてください。確認のしかた 42ページ
- $\pm 15^\circ$  以上傾くときは、付属の台座を使用して調整します。( 31ページ )

まず、下記のことを行ってください

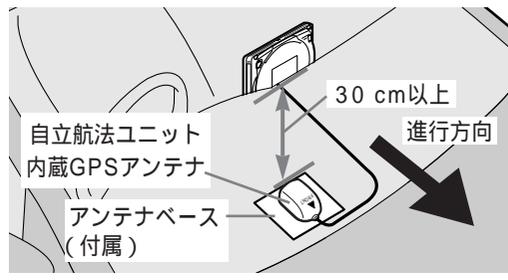
- 本体を車内に取り付ける
- 自立航法ユニット内蔵GPSアンテナを本体に接続する ( 24ページ )
- リモコンに乾電池を入れ、本体に地図ディスクを入れる ( 38、39ページ )

取り付け角度の確認は、車を水平な場所に停車し、パーキングブレーキを引いてから行ってください。

**1** 電源を入れる (☞40ページ)

**2** 自立航法ユニット内蔵GPSアンテナをアンテナベースの上に載せ、ダッシュボードの先端付近のできるだけ水平な位置に置く

- 自立航法ユニット内蔵GPSアンテナは、ナビゲーションシステム本体から30 cm以上離れた位置に配置してください。
- アンテナ上面の▲が進行方向を向くようにしてください。



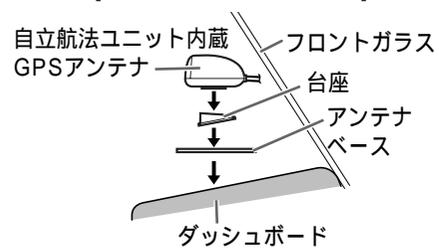
**3** GPSアンテナの取付角度を確認する(☞42ページ)

- 取付角度は測定してから画面に表示するまでに約5秒かかります。自立航法ユニット内蔵GPSアンテナを配置した後、しばらく待ってから確認してください。

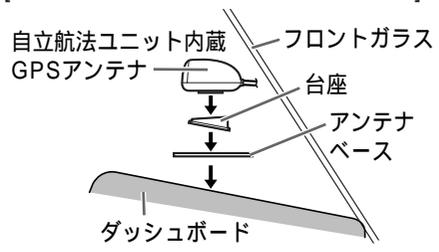


- 「適切」と表示された場合：調整の必要はありません →手順④へ
- 「要調整」と表示された場合：付属の台座を使って角度を調整してください。(下記)  
 ダッシュボードの傾きにに合わせて付属の台座の向きを変え(下図参照)、画面を見ながら取付角度が「適切」となるように調整する
- ダッシュボードの傾きが大きく固定しにくいときは、手で押さえるなどして行ってください。

[ 手前に傾いている場合 ]

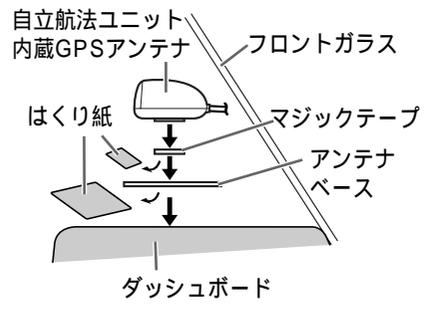


[ フロントガラス側に傾いている場合 ]



**4** 自立航法ユニット内蔵GPSアンテナを固定する

- ① アンテナベースのはくり紙を外し、ダッシュボードに貼り付ける
- ② アンテナベースの中央に付属のマジックテープを貼りつける
- ③ アンテナベースと自立航法ユニット内蔵GPSアンテナ底面のマジックテープをしっかりと合わせ、固定する



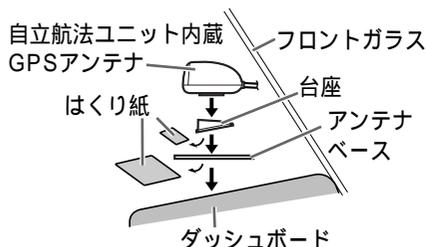
## GPSアンテナを取り付ける

## 自立航法ユニット内蔵GPSアンテナの取り付けかた(KX-GT300V) つづき

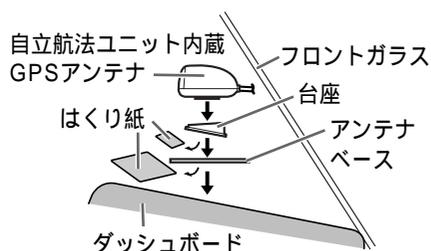
「要調整」が表示され台座を使って調整した場合

- ① アンテナベースのはくり紙を外し、ダッシュボードに貼り付ける
- ② 台座のはくり紙を外し、アンテナベースに貼り付ける
- ③ 台座と自立航法ユニット内蔵GPSアンテナ底面のマジックテープをしっかりと合わせ、固定する

[ 手前に傾いている場合 ]



[ フロントガラス側に傾いている場合 ]



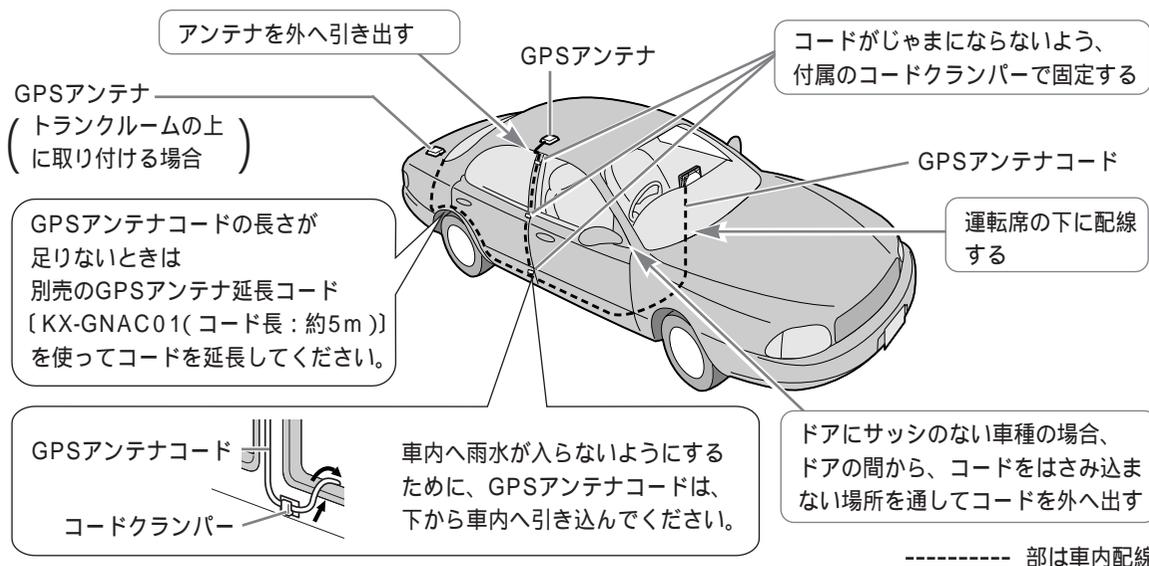
- ⑤ 付属のコードクランパーを使って、アンテナコードを固定する。



## GPSアンテナの取り付けかた(KX-GT200V)

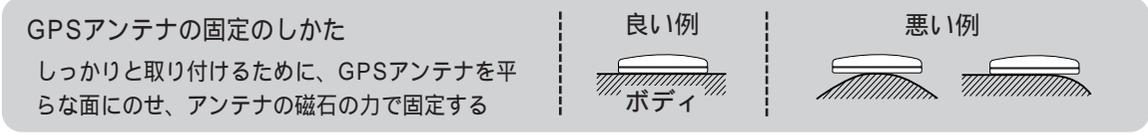
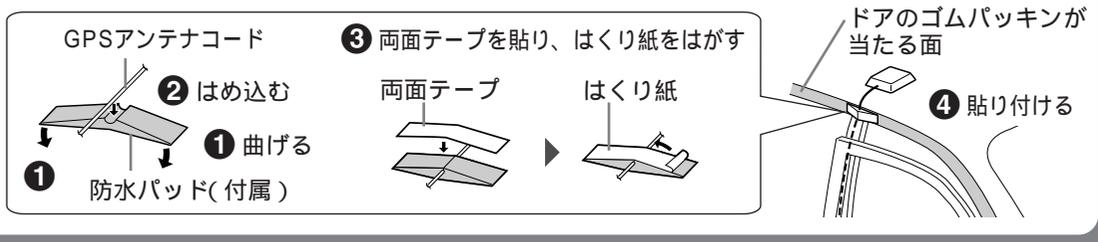
GPSアンテナは下図のようにGPSアンテナコードを引き回し、アンテナ底面の磁石で屋根(ルーフ)などに固定します。できるだけGPS衛星からの信号を受けやすい場所に水平に取り付けてください。

[ 取付例 ]



# GPSアンテナの取り付けかた (KX-GT200V) つづき

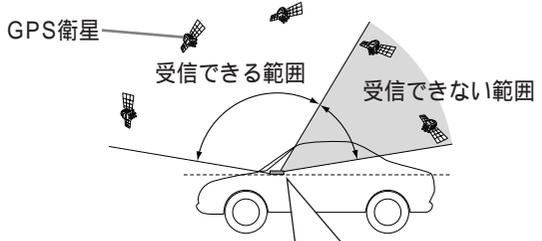
防水パッドの使いかた(車内に雨水が入らないようにするために)



## 車内に取り付ける場合のお願い

ダッシュボードに取り付けると、右図のように、車の屋根(ルーフ)などの金属部やガラスの種類によっては、GPS衛星からの信号を受けにくくなるため、現在地を正確に表示できなくなり、ナビゲーション機能が正常にはたらかない場合があります。このように受信状態が低下することをあらかじめご理解のうえ、取り付けてください。

GPS衛星からの信号を受信できる範囲がせまくなります。



**取り付けかた**

- ① 付属のGPSアンテナベースの両面テープをはがし、ダッシュボードに貼りつける
- ② GPSアンテナベースの上にGPSアンテナを取り付ける

**お願い** .....

- GPSアンテナは次のような場所に取り付けてください。
  - ダッシュボードの先端
  - 水平な場所
  - 道路の中央寄り(車の右側)

50 cm以上

GPSアンテナ

GPSアンテナベース(付属)

**お願い** .....

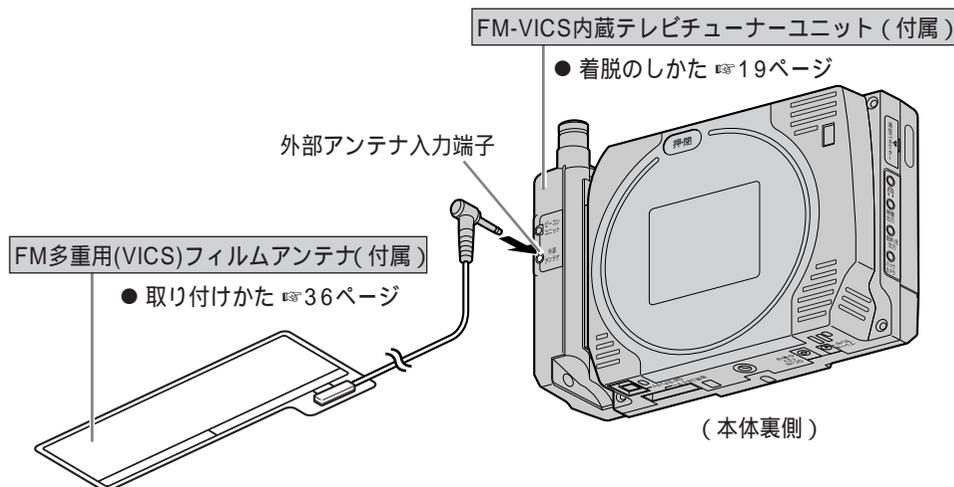
- GPSアンテナについて**
- GPSアンテナは、本体から50 cm以上離して取り付けてください。
  - GPSアンテナに付いている磁石は大変強力です。時計や磁気カードなどに近づけないでください。(時計や磁気カードが故障したり、使えなくなることがあります。)
  - GPSアンテナは地面や砂ぼこりの多い所には置かないでください。(取り付けの際、磁石に付いた鉄粉で車のルーフを傷つけないように、鉄粉などをよく取り除いてください。)
  - GPSアンテナに雪が積もると受信できません。雪を取り除いてください。
  - 洗車などのときは取り外してください。(傷付きや故障の原因になります。)
  - GPSアンテナは、ダッシュボード上の温度センサーなどを避けて設置してください。

- アンテナコードについて**
- GPSアンテナコードを車外でたるませたままにしないでください。
  - GPSアンテナのコードはテレビやラジオのアンテナコードから離してください。(テレビやラジオの受信妨害の原因になります。)
  - GPSアンテナを取り外すときに、GPSアンテナコードを引っ張らないでください。

# FM多重用(VICS)フィルムアンテナを取り付ける

ダイバーシティユニット(別売)またはダイバーシティセット(別売)を使用しない場合

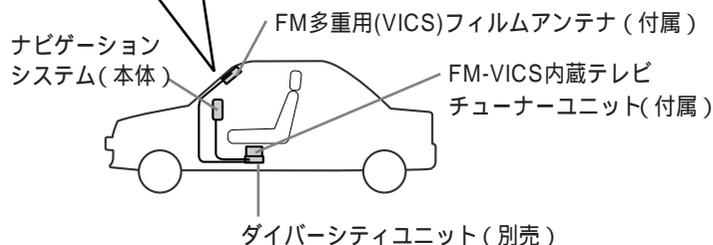
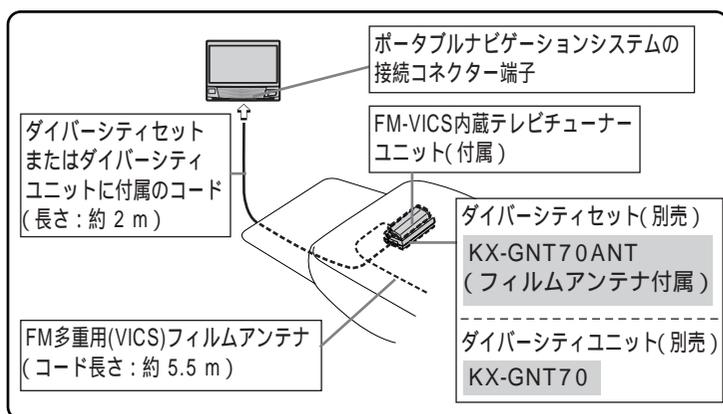
付属のFM多重用(VICS)フィルムアンテナを下図のように接続してください。



ダイバーシティユニット(別売)またはダイバーシティセット(別売)を使用する場合

ダイバーシティユニットは、下図のように助手席の下などのしっかりした場所に取り付けてください。詳しい取り付けかたや接続のしかたは、別売のダイバーシティセットまたはダイバーシティユニットに添付の説明書をご覧ください。

例：助手席の下に取り付ける場合



お願い

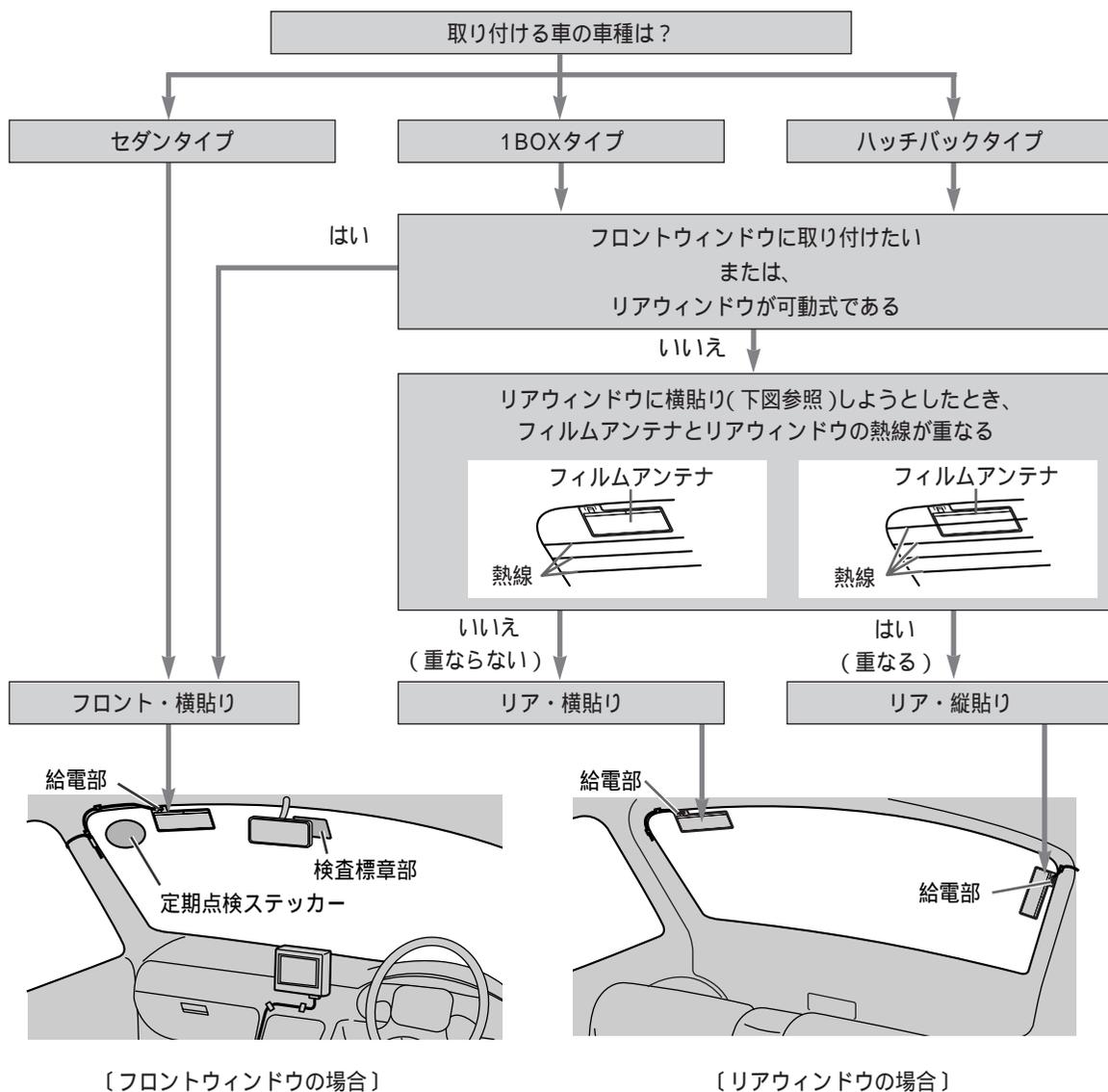
- 直射日光が当たる場所や、ヒーターの熱風を直接受ける場所など、温度が極端に高い場所へは取り付けしないでください。(故障の原因になります。)
- ダイバーシティユニットは必ず指定のもの(KX-GNT70またはKX-GNT70ANT)をご使用ください。指定以外のは、FM-VICS内蔵テレビチューナーユニットを取り付けできません。

お知らせ

- ダイバーシティセット(KX-GNT70ANT)に付属のフィルムアンテナを、FM-VICS受信用としてそのままお使いになれます。

## FM多重用(VICS)フィルムアンテナの取り付け位置

車種によりフィルムアンテナの取り付け位置が異なります。  
下記のチャートに従い、車種に合った取り付け位置をご確認ください。



準備

FM多重用(VICS)フィルムアンテナを取り付ける



お願い

- フロントウィンドウにフィルムアンテナを取り付ける際には、定期点検ステッカーや検査標章部には取り付けないでください。道路運送車両法に適合できません。
- リアウィンドウにフィルムアンテナを取り付ける際には、運転の邪魔にならない位置に取り付けてください。
- 貼り付けるウィンドウにFM/AMラジオアンテナが内蔵されている場合は、干渉を避けるためアンテナが重ならないように貼り付けてください。
- コードの配線は、エアバッグなど車内の安全装置が動作する際に邪魔にならない位置に取り付けてください。

## FM多重用(VICS)フィルムアンテナを取り付ける

## FM多重用(VICS)フィルムアンテナを取り付ける

## FM多重用(VICS)フィルムアンテナを貼り付ける

作業を始める前に、次のものを用意してください。

- 水の入った霧吹き
- シートやタオルなど（車内を保護するために使います）
- 柔らかい布など（ガラスやフィルムアンテナを拭くために使います）

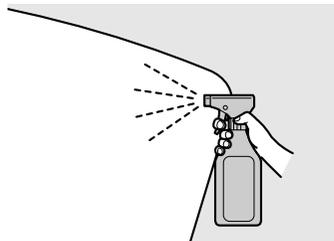
- 1** 貼り付け位置を決め(※35ページ)、ダッシュボードや車内に水がかからないように、シートやタオルなどで保護する

手順②で、ガラス面に水を吹きつけますので、車内が濡れないようにします。

- 2** 柔らかい布などでアンテナ貼り付け部分のガラス面をきれいに拭く

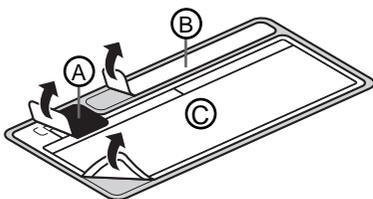
- 糸くずなどが残っていると気泡発生の原因になることがあります。

- 3** ガラスのフィルム貼り付け面に均一に水を吹きつける



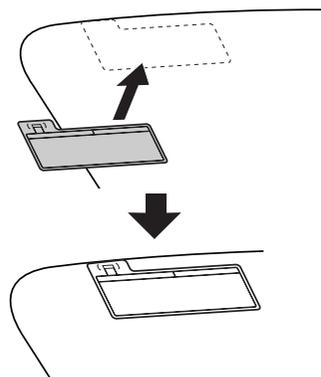
- 4** 給電部保護シール(Ⓐ)とお願い文シール(Ⓑ)をはがしてからフィルムアンテナ(Ⓒ)をはがす

- フィルムアンテナを折り曲げたり、引っ張ったりしないでください。断線の原因になることがあります。
- のり面を汚さないように気を付けてください。特に、フィルムアンテナの給電部の電極は、手で触れたり、汚したりしないでください。



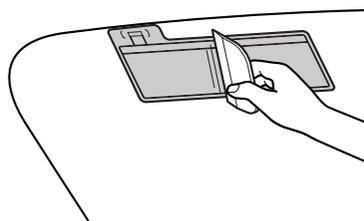
- 5** フィルムアンテナを水を吹き付けたガラス面に貼り付ける

- フィルムアンテナ給電部側の端を窓枠に沿って貼り付けてください。



- 6** 作業用ヘラを使って、フィルムアンテナの気泡を取り除く

- 強くこすりつけないようにしてください。アンテナを傷つける原因になることがあります。



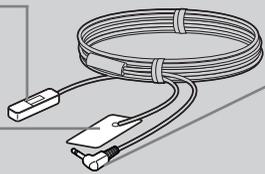
- 7** フィルムアンテナ周辺の水分を柔らかい布で拭き取る

- 2～3時間そのまま放置し、十分乾燥させてください。

## アンテナ出力コードを取り付ける

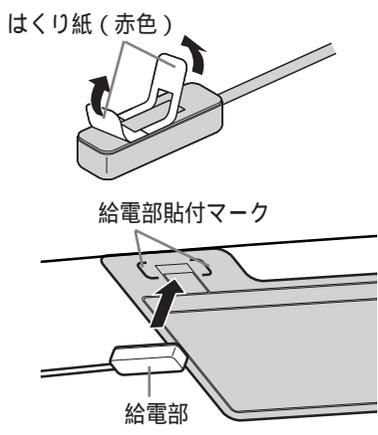
給電部  
フィルムアンテナに貼り付ける

アース板  
車内の金属部に接触させる



アンテナ接続端子  
ナビゲーションシステム本体または別売のダイバーシティユニットに接続する

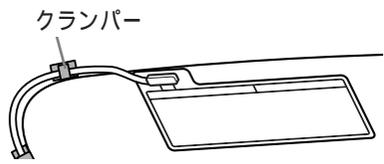
**1** アンテナ出力コードの給電部のはくり紙(赤色)をはがす



**2** フィルムアンテナ側の給電部貼付マークに合わせて給電部を貼り付け、しっかり押さえる

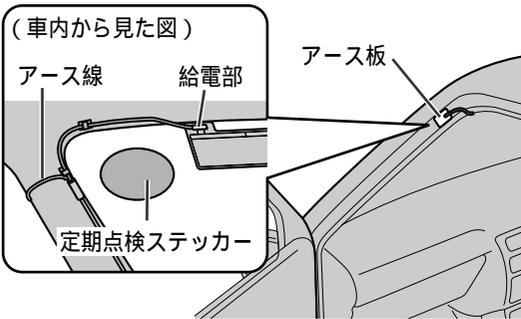
- 正しい位置に貼り付けないと、端子のスレや浮きなどで本機の性能が発揮できません。

**3** 給電部の近くにコードクランパーを取り付けてコードを固定する

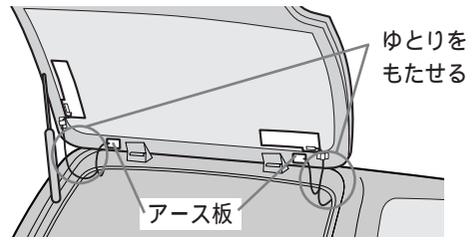


**4** アース板を取り付ける

フロントウィンドウに貼り付けた場合：  
前席ドアの内側の金属部(塗装面)に貼り付ける

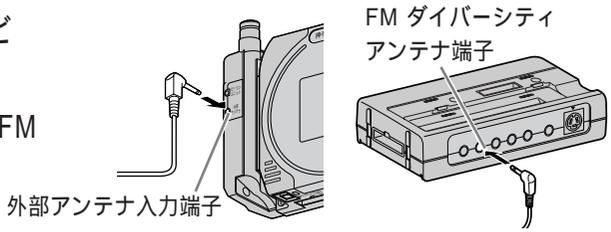


リアウィンドウに貼り付けた場合：  
フィルムアンテナ近くの金属部(塗装面)に貼り付ける



- 後部ドアの開閉時にコードに無理な力が加わらないように充分ゆとりを持たせてください。

**5** アンテナ接続端子をFM-VICS内蔵テレビチューナーユニットの外部アンテナ入力端子、またはダイバーシティユニットのFMダイバーシティアンテナ端子に接続する



# リモコンの準備をする

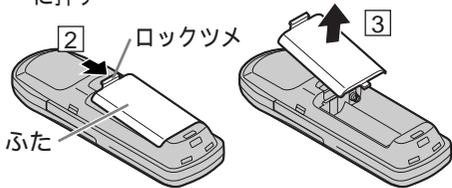
## 電池の入れかた

### 1 ふたを開ける

- ① リモコンから、リモコンホルダーを外す

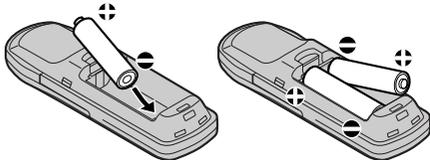


- ② ふたのロックツメを指で矢印の方向に押す
- ③ 上に取り外す



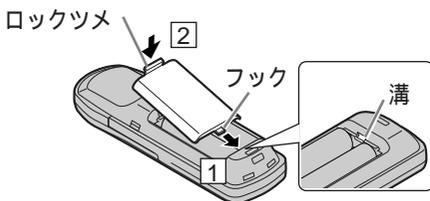
### 2 電池を入れる

- 電池収納部(底面)の表示に従って入れる。



### 3 ふたを閉める

- ① ふたのフックを電池収納部の溝に引っかける
- ② ふたのロックツメを矢印の方向に差し込む

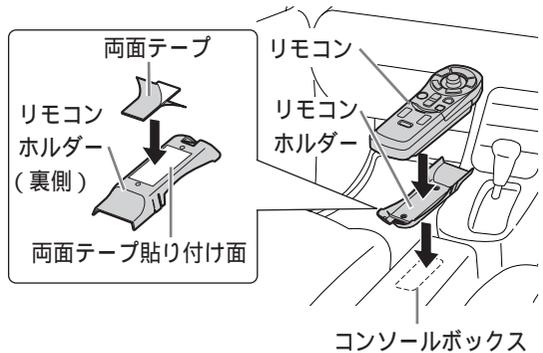


お願い

- 充電式(Ni-Cd)電池は使用しないでください。(形状および性能の一部が異なり、正しく機能がはたらかないことがあります。)
- 電池は単3形乾電池を2本使用してください。  
乾電池の寿命 : 約1年(1日当たりキー受付回数120回使用の場合)  
マンガン乾電池を20 で使用したとき

## リモコンホルダーの取り付けかた

(例) コンソールボックスに取り付ける。



- リモコンホルダーの両面テープ貼り付け面や、コンソールボックスの貼り付け面は、湿気、ごみ、油などをよく拭きとってください。

お願い

- リモコンホルダーは、運転の妨げになる位置や、直射日光の当たるところ(ダッシュボード上など)には取り付けないでください。高温により変形することがあります。

## 注意

指定外の電池、新・旧電池や種類の違う電池をいっしょに使わない



禁止

電池の発熱によるやけどや、液漏れの原因になることがあります。

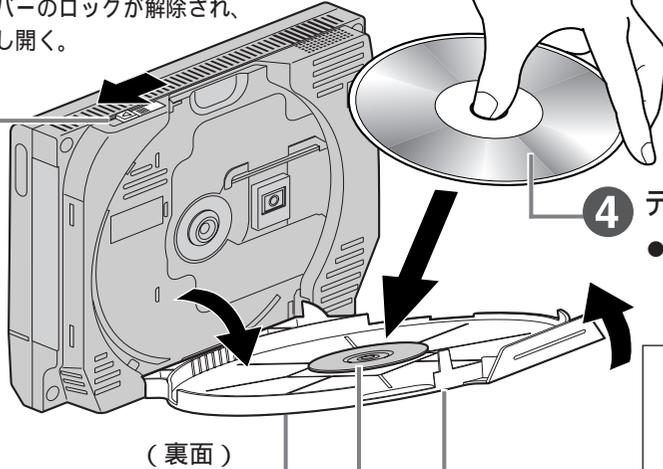
# ディスクを入れる

初めてお使いになる場合は、レンズ保護用のシートを取り外してください。

## 1 電源を切る

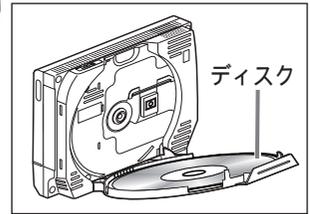
## 2 オープンレバーを「▶」側に止まるまで引く

- ディスクカバーのロックが解除され、カバーが少し開く。



## 4 ディスクをのせる

- 光沢面を上に向け、ディスクをディスクカバーにのせてください。



## 3 ディスクカバーを手で開ける

- ディスクカバーの開閉は手動式です。

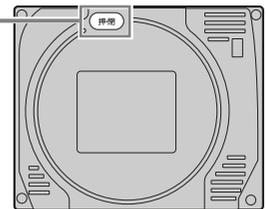
ディスクホルダー（磁石）

- ディスクカバーを閉じたときにディスクとディスクカバーを固定します。

## 5 ディスクカバーを閉じる

- カバーの押・閉表示部を押して、確実に閉じてください。

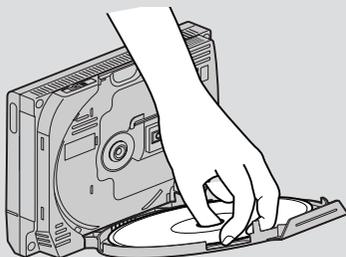
押・閉表示部



### お願い

- 地図ディスクは、必ず付属の専用地図ディスクをお使いください。  
市販の地図ディスク（ナビ研の規格に準拠したものを含む）は、本機では使えません。

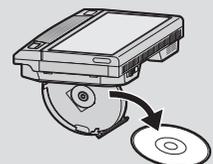
取り出しかた



電源を切り、ディスクに指をかけてディスクカバーから取り出す

### お願い

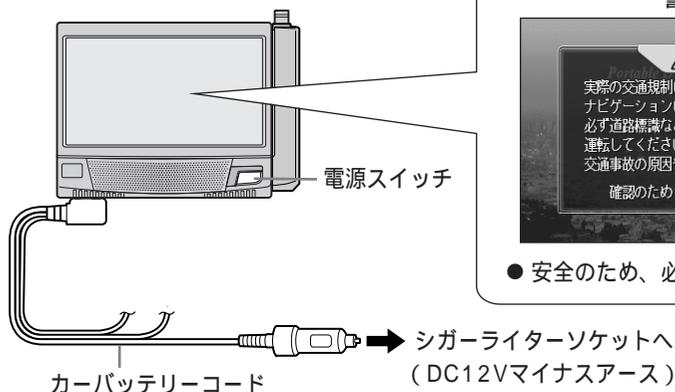
- 必ず本体を立てた状態でディスクカバーを開けてください。  
本体を上向きや横向きにしてディスクカバーを開けると、ディスクがすべり落ちることがあります。



# 電源を入れる

## 1 電源スイッチを奥までしっかりと押す

- 警告画面を約1分間表示する。



## 2 (決定) を押す

- 地図画面を表示し、現在地の測定を始める。( 44ページ「現在地を表示する」)

### 電源の切りかた

電源スイッチを画面が消えるまで(約1秒)押し続ける

#### お願い

- 電源スイッチの入/切は、奥までしっかり押してください。
- 車両によって車のキーをOFF(抜く)にしても、ナビゲーション本体の電源が切れない場合があります。車を離れるときは、電源スイッチを切ってください。(バッテリーが消耗し、エンジンがかからなくなる場合があります。)

#### お知らせ

- 1分間何も操作しない場合、画面が切り替わり、現在地の測定を始めます。  
(お買い上げ時は、現在地が測定されるまで、東京駅を現在地として表示します。)
- あいさつの音声を流さないようにするとき 92ページ
- 異なるメッセージが表示されたとき 152～156ページの「こんなメッセージが出たときは」

警告画面で (決定) を押した後の画面について

- 前に使用した状態により、次のような画面を表示します。

前に使用した画面	走行中	停車中
地図画面・案内中	現在地案内中またはルート案内中	現在地案内中またはルート案内中
音楽ディスク(CD)	操作画面	操作画面
テレビ画面	画面は出ず音声のみ	テレビ画面
DVDビデオ画面	画面は出ず音声のみ	再生画面
インターネット	現在地案内中またはルート案内中	現在地案内中またはルート案内中

KX-GT300Vのみ

## 警告

運転者は走行中に操作をしたり、画面を注視しない



前方不注意となり交通事故の原因や道路交通法違反になります。

禁止

- ルート設定などの操作は安全な場所に停車して行ってください。

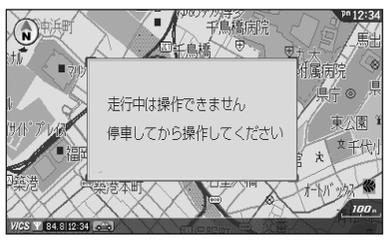
## 操作や機能の制限について

- 走行中は、安全のため、次の表のように、操作や機能が制限されます。

主な操作・機能	走行中	停車中 <sup>5</sup>
メインメニュー (☞55ページ)	×	
決定メニュー (☞55ページ)		2
行き先メニュー (☞55ページ)	×	
渋滞メニュー (☞55ページ)		2
もより検索 (☞116ページ)	×	
ナビゲーション (☞57ページ)	(細い道は表示しません) <sup>3</sup>	
音楽ディスク(CD) (☞136ページ)		
テレビ (☞131ページ)		4
DVDビデオ <sup>6</sup> (☞別冊取扱説明書)		4
インターネット/ル・モテサーチ <sup>6</sup> (☞別冊取扱説明書)	×	

：制限なし      ：一部制限あり    ×：制限あり

- 1 操作をしようとする時、右の画面を約2秒間表示します。
- 2 走行中は操作できる項目だけ表示します。
- 3 細街路の走行中は表示します。
- 4 映像は出ませんが、音声は出ます。
- 5 停車中とは、停車し、パーキングブレーキを引いた状態です。
- 6 KX-GT300Vのみの機能です。



### ● 自宅などで使用の場合

別売の簡易スタンドとACアダプターや充電式バッテリーパックを使用する場合は、VICS(☞117ページ)やFMトランスミッターの機能(☞91ページ)、自立航法ユニット(☞45ページ)は使えません。



- パーキングブレーキセンサーコードを正しく接続していないと、走行中と判断し、走行中と同様に操作が制限されます。

# 取り付けを確認する

自立航法ユニット内蔵GPSアンテナ(KX-GT300Vに付属)の取り付けや、コードの接続の確認ができます。車内に設置した場合の確認画面のため、別売のACアダプターおよび充電電池を使用しているときは、取り付け確認画面は表示しません。

カーソル/決定キー



- ①  を押す
- ② カーソル/決定キーで【情報】を選び、 を押す
- ③ 【取り付けを確認する】を選び、 を押す

取り付け確認画面の見かた



## ① 電源電圧

現在の電圧を表示〔通常12V〕(許容範囲は約11~15V)

表示される電圧は、ナビ本体に供給される電圧で、実際のバッテリー電圧とは誤差があります。

- 0.1V単位で数値が変化。5秒ごとに更新されます。

## ② パーキングセンサー

ON : 停車中

OFF : 走行中

- パーキングブレーキを引いても「ON」表示にならない場合は、パーキングブレーキセンサーコードの接続(☞28ページ)を確認してください。

## ③ チューナーユニット

VICS : FM-VICS内蔵テレビチューナーユニット(付属)が正しく接続されています。

TV : テレビチューナーユニット(別売)が正しく接続されています。

非接続 : FM-VICS内蔵テレビチューナーユニット(付属)またはテレビチューナーユニット(別売)が接続されていない状態です。または、正しく接続されていません。

- FM-VICS内蔵テレビチューナーユニットの着脱(☞19ページ)

## ④ ビーコン

接続 : 光/電波ビーコン対応VICSユニット(別売)が正しく接続されています。

非接続 : 光/電波ビーコン対応VICSユニット(別売)が接続されていない状態です。または、正しく接続されていません。

## ⑤ 車速パルス(自立航法をハイブリッド航法で使用中表示。簡易ハイブリッド航法使用中、または、自立航法の使用を【しない】に設定しているときは「-」と表示)

積算値 : 00000 ~ 99999

- 走行すると、数値が変化します。数分間走行しても数値が変化しない場合は、下記の確認をしてください。
  - 車速パルス入力コード(☞26ページ)の接続
  - 自立航法の速度の計算方法が【車速】に設定されているか(☞94ページ)

学習度 : 1 ~ 3

- 1 : 学習が十分ではなく、自車位置がずれることがあります。
- 2 : 実用上十分な学習ができていますので、自車位置のズレは少なくなります。
- 3 : 最も誤差が少ない状態です。自車位置のズレはほとんどなくなります。

## 車速パルスの学習度について

学習度1~3とは距離補正の精度を表します。本機の内部コンピュータで、自動的に距離補正を行います。しばらく(30分程度)走行すると次第にズレはなくなって精度は高まってきます。その後もさらに精度を高める処理を継続します。学習度「3」が最も精度の高い状態です。学習度を「3」にするには、約4時間以上の走行が必要です。(ただし、走行状態によっては、それ以上かかる場合があります。)

- 他の車にのせかえてすぐの場合などに表示される学習度の数値は、正確なものではありません。しばらく走行すると、正しい数値を表示します。

## ⑥ 自立航法(自立航法の使用を【しない】に設定しているときは「-」と表示)

簡単 : 自立航法ユニットが正しく接続されていて、速度の計算方法が【簡単】に設定されています。

車速 : 自立航法ユニットが正しく接続されていて、速度の計算方法が【車速】に設定されています。

非接続 : 自立航法ユニットが接続されていない状態です。または、正しく接続されていません。

- 自立航法の使用、速度の計算方法を設定するには(☞94ページ)

## ⑦ GPSアンテナ(自立航法ユニット内蔵GPSアンテナ接続時のみ表示)

自立航法ユニット内蔵GPSアンテナ(KX-GT300Vに付属)の取り付け角度を表示

(許容範囲は - 15 ° ~ + 15 °)

適切 : 適切な角度(±15 °以内)で取り付けられています。

要調整 : 自立航法ユニット内蔵GPSアンテナの取り付け角度を調整してください。(☞31ページ)



お知らせ

- 地図画面に戻るには→ を押す

# 現在地を表示する

本機は電源を入れた後、現在地の測定を始めます(☞40ページ「電源を入れる」)。測定が完了すると、正しい現在地(自転車位置)を画面に表示します。現在地からのルートを作るときや、正しいルート案内をするためには、必ず、現在地を測定する必要があります。

GPS衛星からの信号を受信するために、現在地の測定はできるだけ見晴らしのよい安全な場所に停車して行ってください。

現在地を測定中

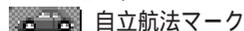


自転車マーク

- GPS航法を使用している場合は、停車中は(🚲)になります。

## KX-GT300Vの場合

(またはKX-GT200Vに自立航法ユニットを接続している場合) :



## KX-GT200Vの場合

(自立航法ユニットを接続していない場合、または、KX-GT300Vで自立航法の使用を【しない】に設定している場合) :



現在地の測定を中断してしまったときは

現在地の測定中に(🚲)を押すなどの操作をして測定を中断した場合は、下記の操作で現在地の測定を行ってください。

### 1 地図画面で(🚲)を押す

- 現在地の測定が始まる。
- 測定が終わった後、(🚲)を押すと、現在地を表示した地図画面に戻る。

## 現在地を表示(測定)するまでの時間

● 見晴らしがよく、受信状態のよい場所	約1~2分
● お買い上げ後、最初に使うとき	約20分
● 長期間使わなかったとき	かかることがあります
● 受信せずに約300 km以上移動したとき	がかかります

## KX-GT300Vの場合

(またはKX-GT200Vに別売の自立航法ユニットを接続している場合)

測定状況	自転車マーク <sup>1</sup>	自立航法マーク(背景の色)	場所を移動して測定をやり直す
測定完了	赤色	オレンジ	
GPS衛星の受信状態が悪く、自立航法だけで測定しているとき	黄色 <sup>2</sup>	グレー	
GPS衛星の受信状態が悪く、誤差が大きくなり、測定を停止しているとき	白色 <sup>2</sup>	グレー	
自立航法が補正中で、GPS衛星だけで測定しているとき	赤色	青 <sup>3</sup>	

- 1 ハイブリッド航法を使用中は、常に赤色になります。
- 2 簡易ハイブリッド航法を使用中にGPS信号が受信できず誤差が生じたときのみ。(☞47ページ)
- 3 約10秒間見晴らしのよい安全な場所に一時停止し、自立航法マークがオレンジ色になるまでお待ちください。また、走行中に下記の操作をすると、この状態になります。下記の操作は、停車中に行ってください。

- 電源を入れる
- テレビ画面から(ナビテレビ)でナビゲーション画面に切り替える

## KX-GT200Vの場合(GPS航法)

測定状況を確認中は、GPSマークは表示されません。

測定状況	自転車マーク	GPSマーク(背景の色)	場所を移動して測定をやり直す
測定完了	赤色	オレンジ	
GPS衛星の受信状態が悪く、測定できないとき	白色	グレー	
電源を入れた後、一度もGPS衛星の信号が受信できないとき	白色	青	

自立航法ユニットを使用していない場合、または、KX-GT300Vで自立航法の使用を【しない】に設定している場合

- お買い上げ時の現在地は、東京駅に設定されています。
- 現在地が測定できない場所(下記)や室内で使用するときなど、自車位置を設定することで、ルート作成など(ナビゲーション以外のこと)ができます。(※48ページ「GPS衛星からの信号が受信できないときは」)
- 長期間ナビゲーションを使わなかった場合は、ナビゲーションを行う前に現在地を表示(測定)してください。
- GPS航法での測定誤差は、約30~200mくらいです。
- 自立航法での誤差について(※46ページ)

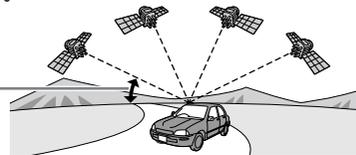
### GPS航法について

GPS航法とは、米国国防総省により打ち上げられているGPS衛星からの信号を受信し、現在の位置を測定する方法です。

GPS航法では、3個以上のGPS衛星からの信号を受信すると、現在地を表示します。

GPS衛星の配置が悪いと、GPS衛星からの信号を受信できていても、一時的に現在地のずれが大きくなったり、現在地を表示しなかったりすることがあります。

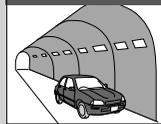
角度が10度未満のときは受信できません。



### GPS航法では現在地が測定できない場所

右のような場所ではGPS衛星からの信号を受信しにくいので、測定できません。場所を移動してください。

トンネルの中やビル内の駐車場



高層ビルなどに囲まれた場所



高い樹木に囲まれた場所



多層構造の道路の下など



自立航法について〔KX-GT200Vは別売品が必要です(別売品については※141、142ページ)〕

自立航法では、GPS衛星が受信不能な状況でも、自立航法ユニット内のセンサーが方位や距離を検出し、現在地を画面に表示できます。

自立航法の種類	簡易ハイブリッド航法	ハイブリッド航法
現在地の測定方法	車速(パルス)信号を使わず、車の加速/減速によってGPSアンテナ内のセンサーに加わる加速度の変化で、車の速度を計算し現在地を測定します。	車速(パルス)信号を使って現在地を測定します。
配線	車速(パルス)信号の取り出しは不要です。 ● 付属の自立航法ユニット内蔵GPSアンテナの取り付け(※30ページ)だけで簡単に使用できます。 ● 車速(パルス)信号が出ていない車種などでも使用できます。	エンジンコントロールコンピュータユニット(ECU)から車速(パルス)信号を取り出す必要があります。(接続方法※26ページ) ● 接続には、車に関する専門知識が必要になります。また、車速(パルス)信号取り出し箇所については、お買い上げの販売店にご相談ください。 ● 車速(パルス)信号が出ていない車種では使用できません。
自立航法の設定(※94ページ)	お買い上げ時の設定(速度の計算方法【簡単】)のまま使用できます。	速度の計算方法を【車速】に設定してください。

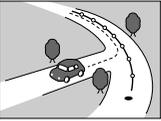
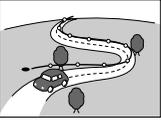
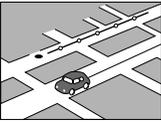
- 簡易ハイブリッド航法で使用する場合、長い高架下や長いトンネルなどで、GPS衛星の信号が受信できない状況が続くと現在地を表示できなくなることがあります。常により正確な現在地を表示したい場合は、より精度の高い車速(パルス)信号を用いたハイブリッド航法をおすすめします。

次ページへ▶

## 現在地を表示する

## 自立航法による現在地表示の誤差について

下記の状況では、自立航法が正常に動作しにくくなり、実際に走行している道と現在地が一致しなくなることがあります。

自車 / 本機の状況	誤差の状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>● Y字路を曲がった。(右図)</li> </ul>	 <p>実際の道と異なる道路に現在地を表示することがあります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● ループ橋など、方位が連続して変化する道を走行している。</li> <li>● ヘアピンカーブを走行している。(右図)</li> <li>● 現在地を測定している状態でトンネルや高架道路下などを長時間走行している。</li> </ul>	 <p>現在地を道路から外れて表示することがあります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 直線コースや、緩やかなカーブなどが続く道を長距離走行している。</li> </ul>	<p>少しずつ現在地が道路から外れたり、現在地の誤差が大きくなる可能性があります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 平行している道のどちらかを走行している。(右図)</li> <li>● 駐車場や、地図ディスクに道路データがない道を走行している。</li> </ul>	 <p>隣の道路に現在地を表示することがあります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地図上に上下車線を区別して表示している場所(高速道路や有料道路など)を走行している。</li> </ul>	<p>反対車線に現在地を表示することがあります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 駐車場(特に地下駐車場や立体駐車場)で旋回や切り返しを繰り返した。</li> </ul>	<p>そのあとしばらく、誤差が大きくなる可能性があります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● ターンテーブルで旋回した。</li> </ul>	<p>進行方向の表示が実際の進行方向とは異なることがあります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 車を後進させた。</li> </ul>	<p>後進時も現在地は前進をするため、誤差が大きくなる可能性があります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 雪道や砂利道などスリップしやすい道路を走行している。</li> <li>● タイヤチェーンを装着して走行している。</li> <li>● 蛇行運転をしている。</li> </ul>	<p>距離が狂うため、誤差が大きくなる可能性があります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本機の電源を切って走行後、再度電源を入れた。</li> <li>● フェリーなどで移動後、電源を入れた。</li> <li>● テレビ画面で走行後、ナビゲーションを始めた。</li> </ul>	<p>以前に電源を切った場所に、現在地をしばらくの間表示します。</p>

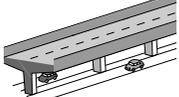
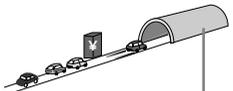
● 簡易ハイブリッド航法を使用した場合のみ

簡易ハイブリッド航法では、車の加速/減速によってセンサーに加わる加速度の変化で、車の速度を計算しています。下記の状況や運転のしかたによっては、重力や慣性の力が安定せず、誤差が大きくなることがあります。誤差の状況により、自車マーク(🚗)の色が変わります。

下記の条件のような場所を通過後しばらくすると正常な位置に補正し、自車マークが赤色に変わります。

表示の色と誤差の状況

- 🚗 (赤) : GPS信号を受信し、現在地を表示している
- 🚗 (黄) : GPS信号を受信できず誤差が出始めたとき
- 🚗 (白) : GPS信号を受信できない状態が続く誤差が大きくなったとき(位置表示の更新を停止することがあります。)  
電源を入れた時やテレビを見た後など、GPS信号を受信するまでの間(前回使用していた時の位置を表示します。)

自車 / 本機の状況	誤差の状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 電源を入れたとき</li> <li>● テレビ画面から <b>ナビテレビ</b> でナビゲーション画面に切り替えたとき</li> </ul>	<p>少しずつ現在地がずれたり、進まなくなったりすることがあります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● トンネル内で傾斜が変わるようなとき 海底トンネルなど</li> </ul> 	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 長時間GPS衛星を受信できないとき</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>長いトンネル</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>トンネルが連続する場所</p>  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <p>連続した高架の下</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>ビルに囲まれ空が見えにくい場所</p>  </div> </div>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 急激に速度が変化するようなとき 料金所を出て直後のトンネル内での加速進入時</li> </ul>  <p style="text-align: center;">GPS衛星を受信できない</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 急激に勾配が変化するようなとき 立体駐車場 険しい山道</li> </ul> 	

● ハイブリッド航法を使用した場合のみ

下記の状況では、誤差が大きくなることがあります。

自車 / 本機の状況	誤差の状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 初めて本機を使用する。</li> <li>● 他車に本機を取り付け直した。</li> <li>● タイヤを交換した。</li> </ul>	<p>走行を始めてしばらくは誤差が大きいことがあります。</p>

GPS衛星からの電波を受信しやすい場所で約2～10 km 走行を続けると、GPS衛星の位置データをもとに位置を補正し、次第に道路から外れにくくなります。(車種によっては位置補正に時間がかかりますので、さらに走行を続けてください。)

## 現在地を表示する

## GPS衛星からの信号が受信できないときは

GPS衛星からの信号を受信できないなど、現在地が表示(測定)できないときは、現在地(自転車位置)を設定できます。次のような場合は、自転車位置を設定してください。

- 自宅などの屋内で現在地が表示できない場所でルートを作るときに、出発地に現在地を設定するとき
- 自立航法ユニット(KX-GT200Vは別売)を接続しているときに、現在地の表示に誤差が生じたとき

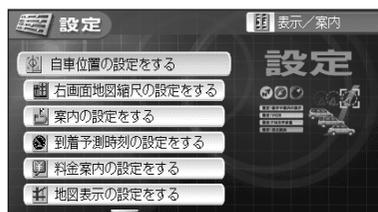
カーソル/決定キー



- 1 を押す → 【設定】を選び、  
 を押す → 【表示や案内の設定をする】を選び、 を押す



- 2 【自転車位置の設定をする】を選び、  
 を押す



- 3 設定する場所を探す方法を選び、  
 を押す

- 場所の探し方 104 ~ 112 ページ



- 4 カーソルを自転車位置にしたい場所に  
 合わせ、 を押す

- 自転車位置の設定は、できるだけ詳細な地図で行ってください。



- 5 カーソル/決定キー( )で  
 自転車マーク内の矢印を、  
 設定したい進行方向へ回転し、  
 方向が合ったら を押す

- 設定が終わり地図画面に戻る。
- 案内を始めたとき → を押す

